

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 4月24日

【評価実施概要】

事業所番号	270201916		
法人名	社会福祉法人弘友会		
事業所名	グループホーム サン・フラワー		
所在地 (電話番号)	〒036-8066 青森県弘前市向外瀬字豊田320番1 (電話) 0172-34-3434		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年3月12日	評価確定日	平成21年4月24日

【情報提供票より】(平成21年2月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 9月 10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	6 人	常勤	5人, 非常勤 1人, 常勤換算 5.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造陸屋根造り		
	3 階建ての 階 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	6,000 円	その他の経費(月額)	9,000~冬期15,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	260 円	昼食	260 円
	夕食	280 円	おやつ	200 円
または1日当たり 円				

(4) 利用者の概要(2月20日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77 歳	最低	72 歳	最高	81 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	弘愛会病院、あべ歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

弘前市の市街地にあり、四季の感じられる眺めのよい場所に立地されている。併設のケアハウスの2階にグループホームがあり、職員は、入居者を敬い、一人ひとりの入居者の生活意欲や生活のリズムなどを大切に、日々、達成感を実感していただきながら、安心して暮らせるよう支援している。1ユニット6名の入居者と職員との密なかかわりがもたれ、おなじ時間を共に過ごして行きたいという思いが職員から感じられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念の見直し、地域とのつながり、市町村との連携、入居者の思いや意向の把握等、入居者にとってよりよいホームにしたいという思いのもと、全職員で前向きに改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価については管理者が行い、その結果を職員に提示しているが、話し合いまでには至っていない。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	運営推進会議にて、ホームからは外部評価に対する取り組み事項などについて報告し、各参加メンバーからは、それぞれの持ち味を活かした進捗がされ、そこでの意見交換からサービスの質の向上に努めている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)
重点項目	面会時や毎月のホーム便りで、日頃の暮らしぶりや職員の異動などを報告している。状態に変化があって電話連絡する際にも意見や不満・要望がないかをあわせて伺うなどして、積極的に意見を汲み取る努力をしている。また、寄せられた意見等は、運営に反映させている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会や自治会に入っており、地域の行事にも参加している。また、地域とのつながりが持てるよう積極的に挨拶廻りを行うなどして、地域との関係作りに努めている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者と職員で話し合いをし、平成20年12月1日より「地域の中で信頼され、ふれあいのできるホームを目指します」という理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	チーム会議、朝夕の申し送り等で理念を職員と確認しあい、その実現のための取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	自治会、町内会に加入し、地域の一員として地域の行事にも参加しているほか、地域との繋がりが持てるよう、挨拶回りも行っている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価の意義を理解し、全職員で昨年度の評価結果をもとに話し合い、改善に活かしている。自己評価については、管理者が行い、その結果を職員に提示するに留まっている。</p>	○	<p>自己評価についても外部評価と同様の取り組みを期待したい。</p>
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>家族の参加率が高く、民生委員、警察、消防団、町内会長と地域の方の参加も多い。サービス向上のための議題に関しては双方間での話し合いになっており、改善に活かされている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者が運営推進会議に参加できなかった際は、ホーム側で出向き、議事録を渡している。顔なじみの関係ができているので、些細なことでも相談している。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修や、併設施設の勉強会に参加して、権利擁護についての重要性と制度の習得に努めているが、全ての職員が活用できるには至っていない。</p>	○	<p>必要時に全職員が即応できる体制作りを期待したい。</p>
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部研修や併設施設の研修に参加し、虐待について学んでいる。虐待が見過ごされないように、入居者の体に異変がないかチェックをし注意を払っている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約から解約までの説明を行っており、説明後に疑問が生じた際にも随時対応し納得が得られるようにしている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月のホーム便りで、暮らしぶりや職員の異動などを報告しているほか、面会時などにも健康状態だけでなく日頃の暮らしぶりも窺えるよう報告している。出納状況については、毎月確認していただいている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や、状態報告などの電話連絡の際に意見や不満・要望がないかをあわせて伺ったり、玄関先に苦情ボックスを設置するなどして、積極的に意見を汲み取る努力をしている。寄せられた意見等を真摯に受け止め、運営に反映している。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員が異動になったことを、入居者に伝えると不穏になる場合がある為、伝えられない事もある。家族へはホーム便りにて報告している。異動も多く、引継ぎに関して十分な期間をとる事が難しい状況にある。</p>		<p>職員の異動が入居者に与える影響は大きい。異動に対する十分な配慮と、影響を最小限にする取り組みに期待したい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務調整が難しく、外部研修へ参加する事が少ない。併設施設、ホーム内での勉強会で学び補っている。		勤務調整を行って外部研修にも参加して行こうとする取り組みに期待したい。
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2箇所のグループホームとの交流を持ち、情報交換を行っているが、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じての、サービスの質の向上には至っていない。	○	他事業所との交流や情報交換を行える機会を増やすなどして、さらなるサービスの質の向上につなげて行くことを期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前に、家族との話し合いを2～3回、持つようになっている。事前訪問を重ね関わりを持つことで、本人が納得し入居できるように工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を人生の先輩として接し、支援する側とされる側ということにとらわれず、喜怒哀楽を共にし互いに支えあう関係を築いている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1.一人ひとりの把握</p>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>意向を伝えられる入居者には、関わりの中で随時意向を伺っている。意向の把握が困難な方については家族からの情報や、本人の言葉や仕草、動作から汲み取ることに努めている。</p>		
<p>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人と家族の意見をもとに職員間で会議を行い、本人が暮らしやすいよう入居者本位の介護計画を作成している。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3か月に1度、介護計画の見直しを行っているが、状態変化時の見直しはされていない。</p>	○	<p>状態変化時にも介護計画を見直し、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成することを期待したい。</p>
<p>3.多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制による24時間の健康管理や週2回の訪問看護を受けている。また、通院介助や家族の宿泊希望にも対応している。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居者や家族が希望する医療機関での受診、通院介助を行っている。かかりつけ医と信頼関係を築き、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合の指針を定め、契約時に説明しているほか、状態が変わった時点でも家族との話し合いを行っている。また、家族との話し合いの内容を記録として残している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>併設施設での勉強会や、ホーム内での勉強会を行い、個人情報の取り扱いや個人の尊厳を守ることの大切さを確認している。重要書類は書棚に鍵をかけて、保管している。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をごのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員は入居者一人ひとりの希望やペースを把握し、本人のペースで過ごせるよう支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1日3食、併設施設で調理した食事を提供している。グループホームでは食べやすいように切ったり、温めたりしている。昼は職員が同じ食事を日替わりで一緒に会話をしながら食べている。片付けは入居者と職員が一緒に行っている。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、午前中に併設施設の大浴場を併設の入居者と一緒に使用している。グループホームの個室浴槽は、清拭や足浴時に使用している。	○	入居者のこれまでの生活習慣やその時々希望を考慮するなどして、一人ひとりがくつろいだ気分で入浴できるための取り組みを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯たたみ、皿洗い、おやつ作り等、入居者の過去の生活経験や趣味、得意なものを引き出し、暮らしに活かしている。また、職員がねぎらいの言葉を伝えることで、日々達成感を味わえるよう支援している。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月2回のドライブと入居者から希望があった場合は、計画を立てて外出支援ができるように努力しているが、職員の勤務調整が難しいため日常的な外出支援は行われていない。	○	天気の良い日には、短時間でも戸外に出かけられるような取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、それに基づき勉強会を行っている。身体拘束のないケアを実践するため、折に触れ拘束をしないことを確認している。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを目指し取り組んでおり、併設施設の職員や玄関そばの事務員への協力を得て努力はしているが、その日の入居者の状況により鍵をかけることもある。	○	入居者の外出傾向を把握したり、職員の協力体制を再確認するなどして入居者の安全を確保しながら、日中は鍵をかけずに過ごせるようにするための取り組みに期待したい。
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練を年2回(うち1回は夜間想定)併設施設と一緒にに行っているが、地域の人々の協力と地震に備えての訓練は行われていない。	○	自治会、町内会、消防団との関わりを日頃から持たれているため、訓練時に地域の人々の協力を得られるような体制作り、地震に備えての取り組みと訓練記録を整備しておく事を期待したい。
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設でたてた献立により食事が提供されている。栄養バランスに配慮されており、食べられない食材に対しては、現場にて代替えとなるものを提供している。本人の状態に合わせて、食事、水分量のチェックを行い把握に努めている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	併設施設での勉強会のほか、ホーム内でも勉強会も行っている。また、感染症マニュアルは、最新情報が付け加えられ、それに添った対応が徹底されている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>職員の足音も気にならず、声のトーンも穏やかである。明るさもカーテンや照明により調整されている。入居者と話しあいながら季節に関するものを飾っている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が安心して暮らせるように家族へ働きかけ、思い出の写真や、長年愛用している「のれん」、自分で作成した作品などを飾り、心地よく過ごしていただけるように工夫している。</p>		

 は、重点項目。